

しずおかの景気動向

平成22年 10-12月期

当会議所では、このほど平成22年12月に実施した管内企業の景況調査の結果をとりまとめました。

この調査は会員企業の景気動向を把握し、経営の参考にさせていただくことを目的に四半期ごとに実施しているものです。

■調査方法

郵送によるアンケート方式

■調査対象

- 製造業
 - 小売業
 - サービス業
 - 卸売業
 - 建設業
- 葵区・駿河区：計3000社

（回答状況210社）
（回答率70.0%）

清水区：計2000社

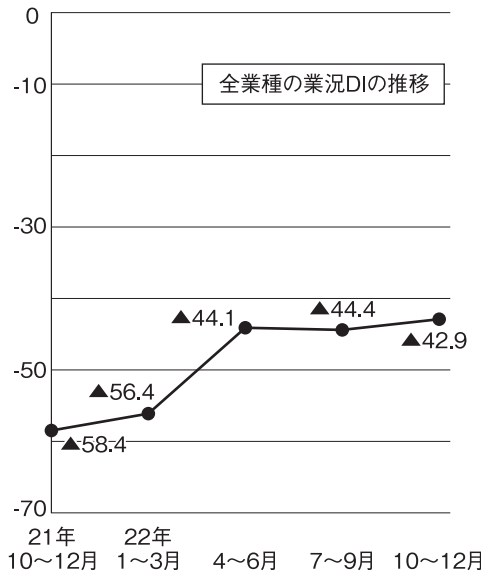
（回答状況155社）
（回答率77.5%）

※D-I「好転」と回答した企業の割合から「悪化」と回答した企業の割合を差し引いた数値。

葵区・駿河区

1 前期と比べて

全業種の業況D-Iは△42.9で、前期（平成22年7月～9月期）の△44.4から若干改善しました。業種別に見ると、小売業・サービス業・建設業では、マイナス幅が縮小し、卸売業ではマイナス幅が拡大しました。



2 来期の見通し

来期（平成23年1月～3月期）の見通しD-Iは全業種で△34.8で、今期に比べてマイナス幅が8.1ポイント縮小し、改善するとみています。

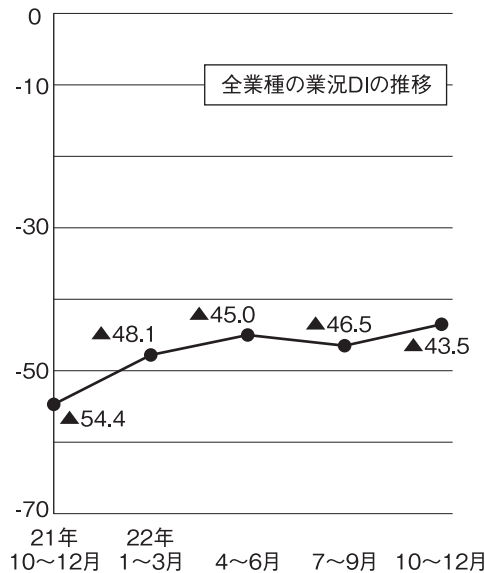
3 経営上の問題点

製造業、卸売業、サービス業の三業種においては「需要の停滞」、建設業は「請負単価の低下・上昇難」、小売業は「消費者ニーズの変化への対応」が経営上の問題点のトップにあがる結果となりました。

清水区

1 前期と比べて

業種別に見ると、卸売業・小売業・サービス業はマイナス幅が拡大したが、製造業・建設業では、マイナス幅が縮小し、全体としては業況の改善傾向を示しました。



2 来期の見通し

来期（平成23年1月～3月期）の見通しD-Iは、全業種で△41.3と今期に比べてマイナス幅が2.2ポイント縮小し、改善するとみています。

3 経営上の問題点

製造業では「需要の停滞」並びに「製品（加工）単価の低下、上昇難」、小売業では「需要の停滞」並びに「消費者ニーズの変化への対応」、卸売業・サービス業では「需要の停滞」、建設業においては「民間需要の停滞」が経営上の問題点のトップにあがる結果となりました。